

令和5年(2023)11月 入域観光客数概況(速報)

68万8,000人
 対前年(R4)同月比 +7万3,000人、+11.9%
 ~11月としては復帰後4番目、対前年同月比で24ヶ月連続の増加~
 ※(R元年度)同月比 ▲11万1,200人、▲13.9%

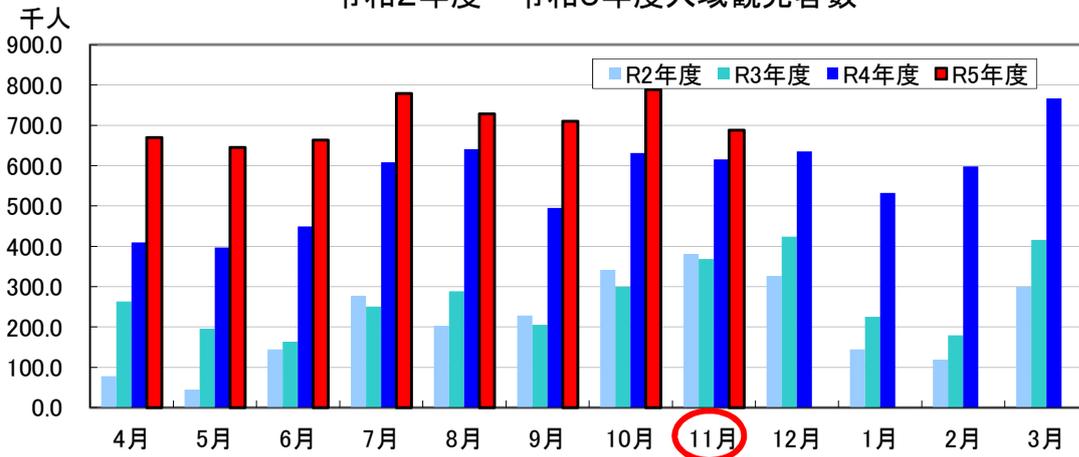
入域状況

入域観光客数(令和4年度との比較)

区分	R5年度	R4年度	増減数	増減率	構成比
国内客	597,100人	602,900人	△5,800人	△1.0%	86.8%
外国客	90,900人	12,100人	+78,800人	+651.2%	13.2%
合計	688,000人	615,000人	+73,000人	+11.9%	100.0%

※外国客には、海路における乗務員等4,200人を含む。

令和2年度~令和5年度入域観光客数



国内客 入域状況

11月は、修学旅行の最盛期となることや、沖縄大交易会2023、ツール・ド・おきなわ等の開催があったものの、昨年、高い割引率で実施された全国旅行支援(第1期(10/11~12/27))の反動等により、前年同月をわずかに下回った(△1.0%)。また、令和元年同月に対しても、わずかに下回った(△0.5%)。

12月は、昨年の全国旅行支援による反動減が若干懸念されるものの、引き続き修学旅行シーズンであること、国内でも人気のNAHAマラソンが通常開催となったことのほか、年末年始需要を見込んだ航空会社による増便・臨時便等があることから、堅調に推移すると見込まれる。

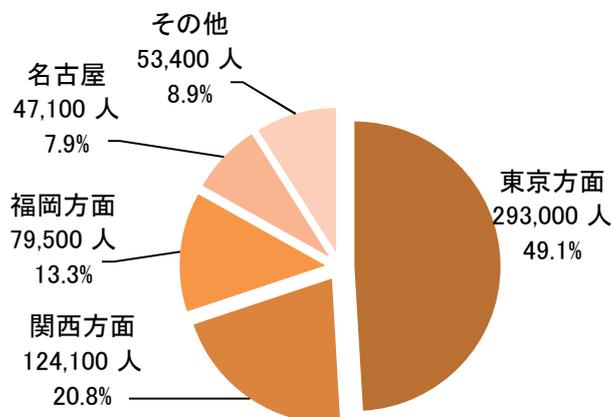
国内客 地域別入域状況

区分	R5年度	R4年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	293,000人	297,000人	△4,000人	△1.3%	49.1%
関西方面	124,100人	127,900人	△3,800人	△3.0%	20.8%
福岡方面	79,500人	75,900人	+3,600人	+4.7%	13.3%
名古屋	47,100人	53,300人	△6,200人	△11.6%	7.9%
その他	53,400人	48,800人	+4,600人	+9.4%	8.9%
合計	597,100人	602,900人	△5,800人	△1.0%	100.0%

※国内海路客1,700人含む。

※外国人観光客数の国別の内訳及び確定値については、出入国在留管理庁公表資料を参照しているため、同庁公表後の令和6年2月の公表を予定しています。

国内客の地域構成比



各方面ごとの概況と見通し

東京

11月は、修学旅行の最盛期となることや、沖縄大交易会2023、ツール・ド・おきなわ等の開催があったものの、昨年の全国旅行支援の反動等により、前年同月を下回った。また、令和元年同月に対しては上回った。

12月は、昨年の全国旅行支援の反動が懸念されるものの、引き続き修学旅行シーズンであること、NAHAマラソンが通常開催となったこと等のほか、年末年始需要を見込んだ航空会社による増便・臨時便があることから、堅調に推移すると見込まれる。

関西

11月は、修学旅行の最盛期となることや、沖縄大交易会2023、ツール・ド・おきなわ等の開催があったものの、昨年の全国旅行支援の反動等により、前年同月を下回った。また、令和元年同月に対しては上回った。

12月は、昨年の全国旅行支援の反動が懸念されるものの、引き続き修学旅行シーズンであること、NAHAマラソンが通常開催となったこと等のほか、年末年始需要を見込んだ航空会社による増便があることから、堅調に推移すると見込まれる。

福岡

11月は、修学旅行の最盛期となることや、沖縄大交易会2023、ツール・ド・おきなわ等の開催により、前年同月及び令和元年同月を上回った。

12月は、引き続き修学旅行シーズンであること、NAHAマラソンが通常開催となったこと等から、堅調に推移すると見込まれる。

名古屋

11月は、修学旅行の最盛期となることや、沖縄大交易会2023、ツール・ド・おきなわ等の開催があったものの、昨年の全国旅行支援の反動等により、前年同月を下回った。

12月は、昨年の全国旅行支援の反動が懸念されるものの、引き続き修学旅行シーズンであること、NAHAマラソンが通常開催となったこと等のほか、航空会社による季節運航(名古屋－宮古/石垣(12/22～1/8))があることから、堅調に推移すると見込まれる。

※外国人観光客数の国別の内訳及び確定値については、出入国在留管理庁公表資料を参照しているため、同庁公表後の令和6年2月の公表を予定しています。